

# 日本書紀

『日本書紀』は養老四年（七二〇年）に成立した日本最初の公式な歴史書であり、令和二年はそれから一三〇〇年の記念の年です。

『日本書紀』は神代（かみよ）の話からはじまり、その中で皇祖（こうそ）・天照大神（あまてらすおおみかみ）は三つの神勅（おことば）を子孫に授けます。この「三大神勅（さんだいしんちよく）」は大神のお考えによって天から降った天孫（てんそん）・瓊瓊杵尊（にぎのみこと）より現代に至るまで天皇と国民のこころと共に大切に受け継がれてきました。

## 神社本庁

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2  
TEL.03-3379-8011 FAX.03-3379-8299  
www.jinjahoncho.or.jp

日本書紀一三〇〇年記念

# 三大神勅

さんだいしんちよく



ゆ に わ の い な ほ  
齋庭稻穂の神勅



わたしが高天原で育てた  
神聖な稻穂をあなたに授けましょう。

天照大神が「人々の食の中心」として天上の田んぼで育てた稲を地上に授けたことを伝える神勅です。毎秋、宮中や全国神社で行われる新嘗祭にいのみさいは大神からの賜り物である米の収穫感謝のおまつりです。天皇一代一度の大嘗祭だいじょうさいにおいても天皇みずから神々へと新穀を供えられ、国と人々の繁栄が祈られます。日本においてまつりや食文化と分かち難い稲作が、神代から受け継がれてきたことを示しています。

(神代紀第九段一書第二)

ほ う き ょ う ほ う さ い  
宝鏡奉齋の神勅



この鏡をわたしだと思  
い大切にまつりなさい。

天照大神が三種の神器の鏡を授け、その鏡を大神と同じように地上でまつることを命じられた神勅です。鏡はのちに伊勢の神宮におまつりされ、宮中では分霊わけたまの鏡をおまつりするようにになりました。御大礼ごたいらいにおいて陛下がまず伊勢と宮中の大神にご奉告されたように今も大切にされ、伊勢の神宮は人々からの崇敬もあつく、宮中でも大神に私たちの平安を願うおまつりが陛下によって行われています。

(神代紀第九段一書第二)

て ん じ ょ う む き ゅ う  
天壤無窮の神勅



日本はわたしの子孫が天皇となる国です。  
その皇位は天地とともに  
永遠に栄えることでしょう。

太陽の女神・天照大神あまのらすのおみかみがご自身の子孫こそ天皇として永遠に日本を治めるにふさわしいと示された大切な神勅です。令和元年五月に新帝陛下はご即位され、秋の即位礼をもつて皇位を受け継がれたことをご披露されました。天孫・瓊瓊杵尊にじぎのみことに神勅が授けられてより今に至るまで代々、大神の子孫がその皇統を確かに受け継いできました。

(神代紀第九段一書第二)